

歴博くらしの植物苑だより

くらしの植物苑観察会

第103回 10月27日(土) 13:30から

「江戸・東京の野菜」 加藤陽子 (荒川ふるさと文化館)

第104回 11月24日(土) 13:30から

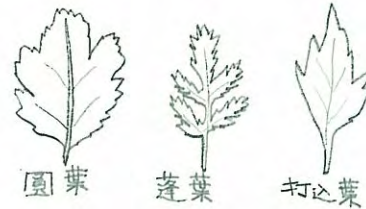
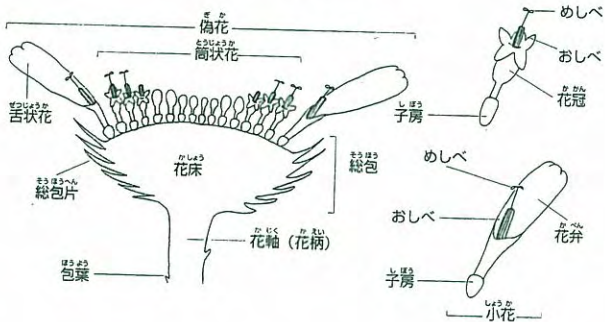
「江戸の菊」 平野 恵 (文京ふるさと歴史館)

くらしの植物苑今週の見どころ <http://www.rekihaku.ac.jp>



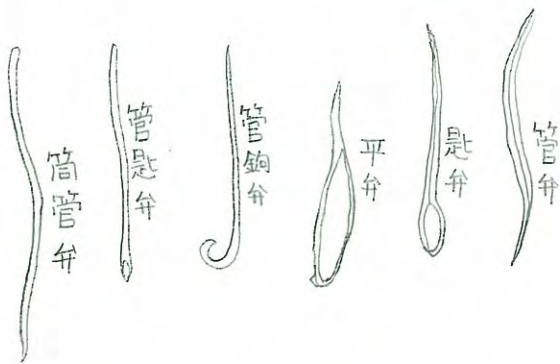
菊: 私たちが観賞している菊は中国のハイシマカンギクとチョウセンノギクの2つの変種が関わったと考えられています。菊の花の構造と花弁の種類はこのように分けられます。中村恒三郎は1910年の「菊の香」で葉形や花弁を次のように表しています。

キクの花のしくみ



「菊の香」(1910)に掲載された江戸菊の葉形

原色 菊 小玉三代目著よりトレス



阿房宮 (食用キク) (キク科キク属)
食用のキクとして、東北地方で栽培されている黄色の小菊です。花肉が厚く、香りが高く葉ざわりがよいので生花のまま、または干し菊として出荷されています。



白竜丸 (丁子菊)
丁子菊は関西地方で栽培されるものの1つで、花の形がフトモモ科のチョウジノキクに似ていることから付けられました。



ツワブキ (キク科ツワブキ属)

海岸付近に生育する多年草で、長い柄がある常緑の葉を根生します。庭にも良く育つので古くから栽培され園芸品種も多いです。子供の頃にあぶった葉をあて、患部にあてうみ出しをしました。



トベラ (トベラ科トベラ属)

温暖海岸に普通に生える雌雄異株の常緑低木です。節分にこの枝を門にさして、魔よけにしたそうです。硬い球形の果実が3つに割れ、熟した粘った赤色の種子がみえます。



カマツカ (バラ科カマツカ属)

山に生える落葉低木で葉の形や毛の状態など変異が多い。果柄にはいぼ状の皮目があります。材は硬く、鎌の柄やハンマーの柄に使用されます。



ホトトギス (ユリ科ホトトギス属)

白地に紫色の斑点のある花をつける多年草。花卉の内側の基部には黄色の斑紋があり、外花被片は内花被片より幅が広い。花柱は3裂して平に開き、さらに浅く2裂します。独特の花をつけます。



あけぼの大豆 (マメ科マメ属)

山梨県のあけぼの地区で栽培されている十六寸とも呼ばれる白い大豆です。晩生の大豆に実が入ってきました。主に枝豆や味噌、豆腐に用いられます。

